

貯法：室温保存
有効期間：3年

	LD	HD
承認番号	22600AMX00279	22700AMX00888
販売開始	2014年12月	2015年12月

持続性ARB/利尿薬合剤

処方箋医薬品^注

日本薬局方 ロサルタンカリウム・ヒドロクロロチアジド錠

ロサルヒド[®]配合錠LD「NIG」

ロサルヒド[®]配合錠HD「NIG」

Losarhyd[®] Combination Tablets

注）注意－医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2.2 チアジド系薬剤又はその類似化合物（例えばクロルタリドン等のスルフォンアミド誘導体）に対する過敏症の既往歴のある患者
- 2.3 妊婦又は妊娠している可能性のある女性 [9.5 参照]
- 2.4 重篤な肝機能障害のある患者 [9.3.1 参照]
- 2.5 無尿の患者又は透析患者 [9.2.1 参照]
- 2.6 急性腎障害の患者 [9.2.2 参照]
- 2.7 体液中のナトリウム・カリウムが明らかに減少している患者 [低ナトリウム血症、低カリウム血症等の電解質失調を悪化させるおそれがある。] [9.1.2、11.1.7、11.1.15 参照]
- 2.8 アリスキレンを投与中の糖尿病患者（ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く） [10.1 参照]
- 2.9 デスモプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿）を投与中の患者 [10.1 参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	ロサルヒド配合錠 LD「NIG」	ロサルヒド配合錠 HD「NIG」
有効成分	1錠中： ロサルタンカリウム 50.00mg ヒドロクロロチアジド 12.50mg	1錠中： ロサルタンカリウム 100.00mg ヒドロクロロチアジド 12.50mg
添加剤	結晶セルロース、酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、部分アルファ化デンプン、マクロゴール6000	

3.2 製剤の性状

販売名	ロサルヒド配合錠 LD「NIG」	ロサルヒド配合錠 HD「NIG」
色・剤形	白色のフィルムコーティング錠	
外形	  	  
直径	7.6mm	長径 13.6mm 短径 6.6mm
厚さ	3.9mm	4.1mm
質量	187mg	310mg

4. 効能又は効果

高血圧症

5. 効能又は効果に関連する注意

過度な血圧低下のおそれ等があり、本剤を高血圧治療の第一選択薬としないこと。

6. 用法及び用量

成人には1日1回1錠（ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして50mg/12.5mg又は100mg/12.5mg）を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。

7. 用法及び用量に関連する注意

原則として、ロサルタンカリウム50mgで効果不十分な場合にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして50mg/12.5mgの投与を、ロサルタンカリウム100mg又はロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして50mg/12.5mgで効果不十分な場合にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして100mg/12.5mgの投与を検討すること。[8.1 参照]

8. 重要な基本的注意

8.1 本剤はロサルタンカリウム50mgあるいは100mgとヒドロクロロチアジド12.5mgの配合剤であり、ロサルタンカリウムとヒドロクロロチアジド双方の副作用が発現するおそれがあり、適切に本剤の使用を検討すること。[7. 参照]

8.2 一過性の血圧低下（ショック症状、意識消失、呼吸困難等を伴う）を起こすおそれがあるので、本剤投与中は定期的（投与開始時：2週間ごと、安定後：月1回程度）に血圧のモニタリングを実施すること。

8.3 本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは低カリウム血症を起こすことが知られている。ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして50mg/12.5mgが投与された国内臨床試験において、血清カリウム値は低下傾向を示し、また低カリウム血症の発現頻度は高カリウム血症よりも高かった。したがって、低カリウム血症の発現がより懸念されるので、血清カリウム値のモニタリングを定期的に行い、観察を十分に行うこと。[9.1.2、11.1.7 参照]

8.4 本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは高尿酸血症を発現させるおそれがあるので、本剤投与中は定期的に血清尿酸値のモニタリングを実施し、観察を十分に行うこと。[9.1.8 参照]

8.5 本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは血糖値上昇若しくは糖尿病顕性化のおそれがあるので、観察を十分に行うこと。[9.1.8 参照]

8.6 本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは重篤な血液障害を発現させるおそれがあるので、定期的に検査を実施するなど観察を十分に行うこと。[11.1.10 参照]

8.7 降圧作用に基づくめまい、ふらつきがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

8.8 手術前24時間は投与しないことが望ましい。アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤投与中の患者は、麻酔及び手術中にレニン・アンジオテンシン系の抑制作用による高度な血圧低下を起こすおそれがある。

8.9 本剤の成分を含むアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤投与中にまれに肝炎等の重篤な肝障害があらわれたとの報告がある。肝機能検査を実施するなど、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

8.10 本剤の投与により利尿効果が急激にあらわれることがあるので、電解質失調、脱水に十分注意すること。

8.11 夜間の休息が特に必要な患者には、夜間の排尿を避けるため、午前中に投与することが望ましい。

* 8.12 本剤の成分であるヒドロクロロチアジドは急性近視、閉塞隅角緑内障、脈絡膜滲出を発現させるおそれがあるので、急激な視力の低下や眼痛等の異常が認められた場合には、直ちに眼科医の診察を受けるよう、患者に指導すること。[11.1.16 参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者
治療上やむを得ないと判断される場合を除き、使用は避けること。腎血流量の減少や糸球体過剰の低下により急速に腎機能を悪化させるおそれがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
利尿降圧剤： フロセミド トリクロロメチアジ ド等 [11.1.5 参照]	一過性の血圧低下を起こす おそれがある。	利尿降圧剤で治療を受 けている患者にはレニ ン活性が亢進している 患者が多く、本剤が奏 効しやすい。
アリスキレン	腎機能障害、高カリウム血 症及び低血圧を起こすお それがある。eGFRが60mL/ min/1.73m ² 未満の腎機能 障害のある患者へのアリス キレンとの併用について は、治療上やむを得ないと 判断される場合を除き避け ること。	レニン・アンジオテン シン系阻害作用が増強 される可能性がある。
アンジオテンシン変換 酵素阻害剤	腎機能障害、高カリウム血 症及び低血圧を起こすお それがある。	
バルビツール酸誘導体	起立性低血圧が増強され ることがある。	これらの薬剤の中枢抑 制作用と本剤の成分で あるヒドロクロチアジ ドの降圧作用による。
あへんアルカロイド系 麻薬		本剤の成分であるヒド ロクロチアジドとあ へんアルカロイドの大量 投与で血圧下降があ らわれることが報告さ れている。
アルコール		本剤の成分であるヒド ロクロチアジドと血 管拡張作用を有するア ルコールとの併用によ り降圧作用が増強され る可能性がある。
昇圧アミン： ノルアドレナリン アドレナリン	昇圧アミンの作用を減弱す ることがある。 手術前の患者に使用する場 合、本剤の一時休薬等の処 置を講ずること。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジドは昇 圧アミンに対する血管 壁の反応性を低下させ ることが報告されてい る。
ツボクラリン及びその 類似作用物質： ツボクラリン塩化物 塩酸塩水和物	ツボクラリン及びその類似 作用物質の麻痺作用を増強 することがある。手術前の 患者に使用する場合、本剤 の一時休薬等の処置を講ず ること。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジドによ る血清カリウム値の低 下により、これらの薬 剤の神経・筋遮断作用 を増強すると考えられ ている。
降圧作用を有する他の 薬剤： β-遮断剤 ニトログリセリン等	降圧作用を増強するおそれ がある。降圧剤の用量調節 等に注意すること。	作用機序の異なる降圧 作用により互いに協力的 に作用する。
ジギタリス剤： ジゴキシン	ジギタリスの心臓に対する 作用を増強し、不整脈等を 起こすことがある。血清カ リウム値に十分注意するこ と。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジドによ る血清カリウム値の低 下により多量のジギタ リスが心筋Na ⁺ -K ⁺ ATPaseに結合し、心収 縮力増強と不整脈が起 こる。マグネシウム低 下も同様の作用を示す。
乳酸ナトリウム	チアジド系薬剤による代謝 性アルカローシス、低カリ ウム血症を増強することが ある。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジドのカ リウム排泄作用により 低カリウム血症や代謝 性アルカローシスが引 き起こされることがあ る。アルカリ化剤であ る乳酸ナトリウムの併 用はこの状態を更に増 強させる。
リチウム： 炭酸リチウム	リチウム中毒が報告されて いる。血中リチウム濃度に 注意すること。	本剤の成分であるロサ ルタンカリウムのナト リウム排泄作用により、 リチウムの蓄積が起こ ると考えられている。
	振戦、消化器愁訴等、リチ ウム中毒を増強することが ある。血清リチウム濃度に 注意すること。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジドは腎 におけるリチウムの再 吸収を促進し、リチウ ムの血中濃度を上昇さ せる。
副腎皮質ホルモン剤 ACTH	低カリウム血症が発現する ことがある。	本剤の成分であるヒド ロクロチアジド及び 副腎皮質ホルモン剤、 ACTHともカリウム排 泄作用を持つ。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
グリチルリチン製剤	血清カリウム値の低下があ らわれやすくなる。	グリチルリチン製剤は 低カリウム血症を主徴 とした偽アルドステロ ン症を引き起こすこと がある。したがって本 剤の成分であるヒドロ クロチアジドとグリ チルリチン製剤の併用 により低カリウム血症 を増強する可能性があ る。
糖尿病用剤： SU剤 インスリン 速効型インスリン分 泌促進薬	糖尿病用剤の作用を著しく 減弱することがある。	機序は明確ではないが、 本剤の成分であるヒド ロクロチアジドによ るカリウム喪失により 膵臓のβ細胞のインス リン放出が低下すると 考えられている。
コレステラミン	チアジド系薬剤の作用が減 弱することがある。	コレステラミンの吸着 作用により本剤の成分 であるヒドロクロチア ジドの吸収が阻害され ることがある。
非ステロイド性消炎鎮 痛剤： インドメタシン等	降圧作用が減弱されるおそ れがある。	プロスタグランジンの 合成阻害作用により、 本剤の降圧作用を減弱 させる可能性がある。
	腎機能が悪化している患者 では、さらに腎機能が悪化 するおそれがある。	プロスタグランジンの 合成阻害作用により、 腎血流量が低下するた めと考えられる。
	チアジド系薬剤の作用が減 弱することがある。	非ステロイド性消炎鎮 痛剤のプロスタグラン ジン合成酵素阻害作用 により、腎内プロスタ グランジンが減少し、 水・ナトリウムの体内 貯留が生じて本剤の成 分であるヒドロクロチ アジドの作用と拮抗 する。
グレープフルーツ ジュース	降圧作用が減弱されるおそ れがある。本剤の投与中は グレープフルーツジュース の摂取は避けること。	グレープフルーツ ジュースに含まれる成 分のCYP3A4阻害作用 により本剤の有効成分 であるロサルタンカリ ウムの活性代謝物の血 中濃度が低下するため、 本剤の降圧作用が減弱 されるおそれがある。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 アナフィラキシー（頻度不明）

不快感、口内異常感、発汗、蕁麻疹、呼吸困難、全身潮紅、浮腫等があらわれることがある。

11.1.2 血管浮腫（頻度不明）

顔面、口唇、咽頭、舌等の腫脹があらわれることがある。

11.1.3 急性肝炎又は劇症肝炎（いずれも頻度不明）

11.1.4 急性腎障害（頻度不明）

11.1.5 ショック、失神、意識消失（いずれも頻度不明）

冷感、嘔吐、意識消失等があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。[9.1.5、9.1.6、10.2 参照]

11.1.6 横紋筋融解症（頻度不明）

筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎障害の発症に注意すること。

11.1.7 低カリウム血症、高カリウム血症（いずれも頻度不明）

血清カリウム値の異常変動に伴い、倦怠感、脱力感、不整脈等があらわれることがある。[2.7、8.3、9.1.2、9.1.3 参照]

11.1.8 不整脈（頻度不明）

心室性期外収縮、心房細動等の不整脈があらわれることがある。

11.1.9 汎血球減少、白血球減少、血小板減少（いずれも頻度不明）

11.1.10 再生不良性貧血、溶血性貧血（いずれも頻度不明）

[8.6 参照]

11.1.11 壊死性血管炎（頻度不明）

- 11.1.12 間質性肺炎、肺水腫、急性呼吸窮迫症候群（いずれも頻度不明）
間質性肺炎、肺水腫があらわれることがある。また、ヒドロクロロチアジド服用後、数分から数時間以内に急性呼吸窮迫症候群が発現したとの報告がある^{3) - 6)}。
- 11.1.13 全身性エリテマトーデスの悪化（頻度不明）
- 11.1.14 低血糖（頻度不明）
脱力感、空腹感、冷汗、手の震え、集中力低下、痙攣、意識障害等があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。糖尿病治療中の患者であられやすい。
- 11.1.15 低ナトリウム血症（頻度不明）
倦怠感、食欲不振、嘔気、嘔吐、痙攣、意識障害等を伴う低ナトリウム血症があらわれることがある。[2.7、9.1.6 参照]

- * 11.1.16 急性近視、閉塞隅角緑内障、脈絡膜滲出（いずれも頻度不明）
急性近視（霧視、視力低下等を含む）、閉塞隅角緑内障、脈絡膜滲出があらわれることがある。[8.12 参照]
- 11.2 その他の副作用

	0.1～5%未満 ^{注)}	頻度不明
精神神経系	めまい、浮遊感、眠気、頭痛	耳鳴、不眠、知覚異常
循環器系	低血圧、起立性低血圧、動悸	調律障害（頻脈等）、胸痛
消化器	嘔吐・嘔気	口内炎、下痢、口角炎、胃不快感、胃潰瘍、腹部仙痛、膵炎、唾液腺炎、便秘、食欲不振、腹部不快感、口渇
肝臓	黄疸、肝機能障害（AST上昇、ALT上昇、LDH上昇等）	
腎臓	BUN上昇、クレアチニン上昇	
皮膚	発疹、蕁麻疹	多形紅斑、光線過敏、紅皮症、紅斑、そう痒、顔面潮紅、皮膚エリテマトーデス
血液	貧血、赤血球数増加、赤血球数減少、ヘマトクリット低下、ヘマトクリット上昇、ヘモグロビン増加、白血球数増加、リンパ球数増加	好酸球数増加、好中球百分率増加、リンパ球数減少
その他	倦怠感、CK上昇、高尿酸血症、高血糖症、頸部異和感、多汗、頻尿、CRP増加、尿中ブドウ糖陽性、尿中赤血球陽性、尿中白血球陽性、尿中蛋白陽性、BNP増加	発熱、味覚障害、しびれ感、眼症状（かすみ、異和感等）、黄視症、ほてり、浮腫、筋肉痛、咳嗽、低マグネシウム血症、低クロール性アルカローシス、血清カルシウム増加、インポテンス、高カルシウム血症を伴う副甲状腺障害、筋痙攣、関節痛、鼻閉、紫斑、呼吸困難、血清脂質増加、女性化乳房

注) ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジドとして100mg/12.5mg、50mg/12.5mg、50mg/6.25mg、25mg/6.25mgを投与した臨床試験を含む。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

甲状腺障害のない患者の血清PBIを低下させることがある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

海外で実施された疫学研究において、ヒドロクロロチアジドを投与された患者で、基底細胞癌及び有棘細胞癌のリスクが増加することが報告されている^{7) 8)}。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

16.1.1 単回投与

健康成人にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを単回経口投与すると、ロサルタン及びカルボン酸体は、それぞれ投与後1.4及び3.7時間に最高血漿中濃度（C_{max}）に達し、消失半減期（t_{1/2}）1.7及び5.8時間で消失した。ヒドロクロロチアジドの血漿中濃度は、投与後2.8時間でC_{max}に達し、t_{1/2}は7.9時間であった⁹⁾。

健康成人におけるロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを単回経口投与後の薬物動態パラメータ

	ロサルタンカリウム50mg／ ヒドロクロロチアジド12.5mg		
	ロサルタン	カルボン酸体	ヒドロクロロチアジド
C _{max} (ng/mL)	291.0±96.9	592.9±137.4	95.9±20.9
T _{max} (hr)	1.4±0.8	3.7±1.2	2.8±0.9
AUC _{0-∞} (ng・hr/mL)	504.8±180.2	3674.1±680.2	516.2±89.8
t _{1/2} (hr)	1.7±0.6	5.8±1.1	7.9±1.2

n=11、平均±標準偏差（C_{max}、AUC：幾何平均、T_{max}：算術平均、t_{1/2}：調和平均）

16.1.2 反復投与

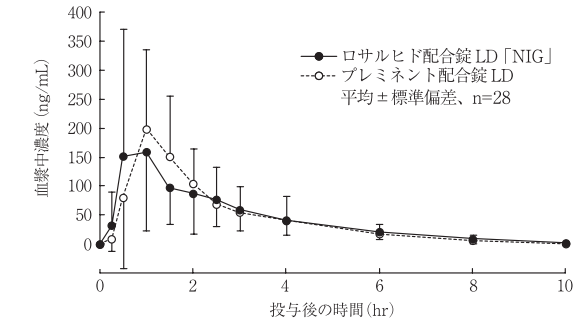
軽症及び中等症の本態性高血圧症患者にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを1日1回14日間反復経口投与した時、血漿中ロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドのいずれにも蓄積性は認められなかった¹⁰⁾。

16.1.3 生物学的同等性試験

〈ロサルヒド配合錠LD「NIG」〉

ロサルヒド配合錠LD「NIG」とプレミメント配合錠LDを、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠（ロサルタンカリウム50mg、ヒドロクロロチアジド12.5mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、C_{max}）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log（0.80）～log（1.25）の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された¹¹⁾。

・ロサルタン

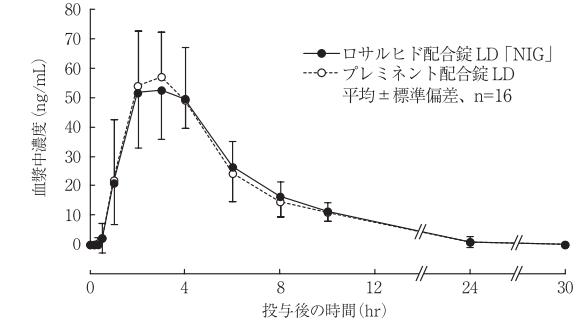


薬物動態パラメータ

	投与量 (mg)	AUC ₀₋₁₀ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	T _{1/2} (hr)
ロサルヒド配合錠LD「NIG」	50	444±134	283±170	1.4±1.0	1.9±0.5*
プレミメント配合錠LD	50	447±133	269±119	1.5±0.9	1.8±0.5

(平均±標準偏差、n=28（※：n=27）)

・ヒドロクロロチアジド



薬物動態パラメータ

	投与量 (mg)	AUC ₀₋₃₀ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	T _{1/2} (hr)
ロサルヒド配合錠LD「NIG」	12.5	380.2±111.7	60.5±16.1	2.7±0.9	4.3±1.9
プレミメント配合錠LD	12.5	377.2±88.0	63.2±14.0	3.1±0.7	4.4±1.7

(平均±標準偏差、n=16)

血漿中濃度並びにAUC、C_{max}等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

16.2 吸収

16.2.1 食事の影響

- (1) 健康成人にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを食後投与すると、空腹時投与に比べてロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドのいずれも最高血漿中濃度到達時間 (T_{max}) が遅延 (0.7～1.7時間) し、ロサルタンの血漿中濃度-時間曲線下面積 (AUC) は差がなかったものの、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドのAUCがそれぞれ17%及び22%低下したが、臨床問題とならない程度であった⁹⁾、¹²⁾。
- (2) 健康成人にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgを食後単回経口投与した場合、空腹時投与に比べてロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドのいずれもT_{max}が遅延 (2.0～2.8時間) し、ロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドのAUCがそれぞれ22%、23%及び11%低下したが、臨床問題とならない程度であった¹³⁾。

16.3 分布

ヒトにおけるロサルタン及びカルボン酸体の血漿蛋白結合率は、いずれも99%以上であった¹⁴⁾。
ヒドロクロロチアジドのヒト血清蛋白結合率は22%であった¹⁵⁾。
外国人におけるロサルタンの分布容積は34Lであった¹⁶⁾。

16.4 代謝

ヒトにおいて、ロサルタンは主としてカルボン酸体へ代謝され、この代謝には、主としてCYP2C9が関与した¹⁴⁾。
ヒトにおいてヒドロクロロチアジドはほとんど代謝されなかった¹⁵⁾。[10. 参照]

16.5 排泄

健康成人にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを単回経口投与後48時間までに、ロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドが、尿中にそれぞれ投与量の3.7%、7.7%及び66.6%排泄された⁹⁾。

16.6 特定の背景を有する患者

16.6.1 腎機能障害患者

腎機能障害を伴う高血圧症患者 (血清クレアチニン値1.5～2.5mg/dL) にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを1日1回7日間反復経口投与した時のロサルタン及びカルボン酸体のC_{max}は、腎機能正常患者に比べ1.2倍高く、AUC_{0-24hr}は1.5～1.7倍高かった。ヒドロクロロチアジドのC_{max}及びAUC_{0-24hr}は、それぞれ腎機能正常患者の1.4倍及び2.2倍、腎クリアランスは27%であった¹⁷⁾、¹⁸⁾。

16.6.2 高齢者

ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを1日1回7日間反復経口投与後のロサルタン及びカルボン酸体の血漿中濃度は、非高齢者と差はなく、ヒドロクロロチアジドの吸収も非高齢者と差がなかった¹⁹⁾ (外国人データ)。

16.7 薬物相互作用

健康成人にロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを単回経口投与した後のロサルタン、カルボン酸体及びヒドロクロロチアジドの血漿中濃度は、各単剤投与後と差がなく、ロサルタンとヒドロクロロチアジドとの薬物動態的な相互作用は認められなかった⁹⁾。
海外において、ロサルタンとシメチジン、フェノバルビタール、ワルファリン、ジゴキシン、ケトコナゾール及びエリスロマイシンとの相互作用について検討したが、いずれも臨床問題となる薬物動態的な相互作用は認められなかった²⁰⁾。ロサルタンとリファンピシン (代謝酵素誘導剤) との併用により、ロサルタン及びカルボン酸体の消失が速くなり、それらのAUCは減少した。また、ロサルタンとフルコナゾール (CYP2C9の阻害剤) の併用により、カルボン酸体のC_{max}及びAUCが減少したが、ロサルタンのAUCは増加した²¹⁾。

16.8 その他

〈ロサルヒド配合錠HD「NIG」〉

ロサルヒド配合錠HD「NIG」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同源性試験ガイドライン (平成24年2月29日 薬食審査発0229第10号)」に基づき、ロサルヒド配合錠LD「NIG」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた¹¹⁾。

17. 臨床成績

17.1 有効性及び安全性に関する試験

17.1.1 第Ⅲ相二重盲検比較試験

二重盲検比較試験において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgはロサルタンカリウム50mg投与よりも有意に優れた降圧効果が認められた。降圧効果判定採用154例のうち有効 (拡張期血圧が90mmHg未満に又は10mmHg以上低下した症例) と判定された症例は112例 (73%) であった²²⁾。
ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgが投与された患者で自他覚症状の副作用が報告されたのは155例中14例 (9.0%) であり、主な副作用は浮動性めまい5例 (3.2%)、悪心2例 (1.3%) であった。また、臨床検査値の副作用が報告されたのは155例中22例 (14.2%) であり、主な臨床検査値の副作用は、尿酸増加8例 (5.3%)、ALT増加、CK増加各3例 (2.0%)、赤血球数減少、ヘマトクリット減少、ヘモグロビン減少、AST増加、BUN増加各2例 (1.3%) であった。
また、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mg

の副作用発現率は、プラセボと同程度であった。

17.1.2 国内第Ⅲ相長期投与試験

日本人を対象に長期の安全性を検討した第Ⅲ相試験において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgが投与された患者で自他覚症状の副作用が報告されたのは200例中28例 (14.0%) であり、主な副作用は頻尿6例 (3.0%)、浮動性めまい4例 (2.0%)、右胸ブロック、動悸、異常感、蕁麻疹各2例 (1.0%) であった。また、臨床検査値の副作用が報告されたのは200例中26例 (13.0%) であり、主な臨床検査値の副作用は尿酸増加6例 (3.0%)、ALT増加5例 (2.5%)、AST増加、カリウム減少各4例 (2.0%)、赤血球数減少、ヘマトクリット減少各3例 (1.5%)、白血球数増加、ヘモグロビン減少、LDH増加、CK増加、尿中赤血球陽性各2例 (1.0%) であった²³⁾。

17.1.3 国内第Ⅲ相二重盲検比較試験

ロサルタンカリウム100mgを服用後に血圧コントロールが不十分であった日本人本態性高血圧症患者を対象とした第Ⅲ相二重盲検試験において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgはロサルタンカリウム100mg投与よりも、投与8週時の平均トラフ坐位収縮期及び拡張期血圧共に、有意に優れた降圧効果を示した (P<0.001)。投与8週時における平均トラフ坐位血圧のベースラインからの変化量を表に示す¹³⁾、²⁴⁾。

ロサルタンカリウム100mgで効果不十分な高血圧症患者を対象とした試験での平均トラフ坐位血圧のベースラインからの変化量^{注1)} (mmHg)

		ベースラインの血圧 ^{注2)}	投与8週時の変化量 ^{注1)}
ロサルタンカリウム100mg (N=170) ^{注3)}	収縮期	155.0 (10.4)	-5.4 (1.0)
	拡張期	97.7 (5.7)	-3.6 (0.6)
ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mg (N=166) ^{注3)}	収縮期	155.4 (11.0)	-14.5 (1.0)
	拡張期	97.1 (5.3)	-8.7 (0.6)

注1) 最小二乗平均値 (標準誤差)

注2) 平均値 (標準偏差)

注3) 主要評価項目のFAS解析対象例

ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgが投与された患者で副作用が報告されたのは166例中16例 (9.6%) であり、主な副作用は血中尿酸増加4例 (2.4%) であった²⁴⁾。

17.1.4 国内第Ⅲ相二重盲検比較試験及び長期投与試験

ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgを8週間服用後に血圧コントロールが不十分であった日本人本態性高血圧症患者を対象に長期安全性を評価した第Ⅲ相試験の二重盲検期 (8週間) において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgはロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgと比べて、投与8週時の平均トラフ坐位拡張期血圧では同程度の降圧効果を示し、投与8週時の平均トラフ坐位収縮期血圧では上乗せの降圧効果を示した。投与8週時における平均トラフ坐位血圧のベースラインからの変化量を表に示す¹³⁾、²⁴⁾。

ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mgで効果不十分な高血圧症患者を対象とした試験での平均トラフ坐位血圧のベースラインからの変化量^{注4)} (mmHg)

		ベースラインの血圧 ^{注5)}	投与8週時の変化量 ^{注4)}
ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド50mg/12.5mg (N=144) ^{注6)}	収縮期	151.7 (9.5)	-6.2 (1.0)
	拡張期	95.9 (5.4)	-5.3 (0.7)
ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mg (N=134) ^{注6)}	収縮期	152.4 (11.2)	-8.5 (1.0)
	拡張期	95.1 (4.5)	-5.0 (0.7)

注4) 最小二乗平均値 (標準誤差)

注5) 平均値 (標準偏差)

注6) FAS解析対象例

また、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgの降圧効果は、収縮期及び拡張期血圧共に52週時においても持続した。

二重盲検期 (8週間) において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgが投与された患者で副作用が報告されたのは134例中7例 (5.2%) であった。延長期 (52週間) において、ロサルタンカリウム／ヒドロクロロチアジド100mg/12.5mgが投与された患者で副作用が報告されたのは265例中32例 (12.1%) であり、主な副作用は血中尿酸増加7例 (2.6%)、高尿酸血症4例 (1.5%)、AST増加、BNP増加各3例 (1.1%) であった²⁴⁾。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

本剤の配合成分であるロサルタンカリウム (ロサルタン) は、アンジオテンシンⅡ受容体のサブタイプAT₁受容体の拮抗薬である。内因性昇圧物質のアンジオテンシンⅡに対して受容体レベルで競合的に拮抗することにより降圧作用を現す。なお、主代謝物のカルボン酸体もこの活性を有する²⁵⁾。ロサルタンは、レニン・アンジオテンシン系 (RAS) が活性化されている高レニン性高血圧モデルにおいて著明な降圧効果を示し²⁶⁾、²⁷⁾、逆にRASの関与が少ない低レニン性高血圧モデルにおける降圧効果は弱いことが知られている²⁷⁾。一方の配合成分であるヒドロクロロチアジド

は、チアジド系の降圧利尿薬である。ヒドロクロロチアジドの降圧機序に関しては、尿管におけるナトリウム再吸収抑制作用による循環血液量減少作用が考えられている²⁸⁾。また、ヒドロクロロチアジドはその利尿作用によりRASの活性化を起こす²⁹⁾。したがって、本剤はRAS活性化状態で著明な降圧効果を示すロサルタンとRASを活性化させるヒドロクロロチアジドとの配合剤であるため、両成分の併用投与は各単剤投与と比較しより顕著な降圧効果を示すと考える。

18.2 降圧作用

自然発症高血圧ラットにおいて、単独投与で中等度の降圧効果（約15mmHg低下）を示した用量のロサルタンと単独投与では降圧効果が認められなかった用量のヒドロクロロチアジドを併用投与することにより、著明な降圧効果（約30mmHg低下）が認められた。併用投与群における降圧効果は各単剤投与群の効果と比較し有意であった³⁰⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

〈ロサルタンカリウム〉

一般的名称：ロサルタンカリウム（Losartan Potassium）

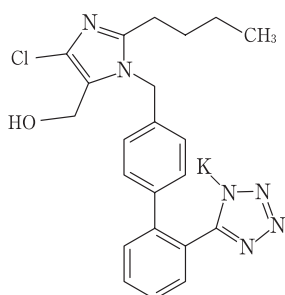
化学名：Monopotassium 5-[4'-(2-butyl-4-chloro-5-hydroxymethyl-1*H*-imidazol-1-yl)methyl]biphenyl-2-yl]-1*H*-tetrazol-1-ide

分子式：C₂₂H₂₂ClKN₆O

分子量：461.00

性 状：白色の結晶性の粉末である。水に極めて溶けやすく、メタノール又はエタノール（99.5）に溶けやすい。

化学構造式：



〈ヒドロクロロチアジド〉

一般的名称：ヒドロクロロチアジド（Hydrochlorothiazide）

化学名：6-Chloro-3,4-dihydro-2*H*-1,2,4-benzothiadiazine-7-sulfonamide 1,1-dioxide

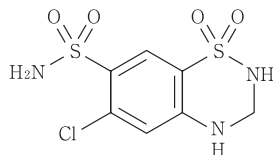
分子式：C₇H₈ClN₃O₄S₂

分子量：297.74

融 点：約267℃（分解）

性 状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は僅かに苦い。アセトンに溶けやすく、アセトニトリルにやや溶けにくく、水又はエタノール（95）に極めて溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。水酸化ナトリウム試液に溶ける。

化学構造式：



22. 包装

〈ロサルヒド配合錠LD「NIG」〉

100錠 [10錠（PTP）×10]

〈ロサルヒド配合錠HD「NIG」〉

100錠 [10錠（PTP）×10]

23. 主要文献

- 1) 阿部真也、他、周産期医学、2017；47：1353-5.
- 2) 齊藤大祐、他、鹿児島産科婦人科学会雑誌、2021；29：49-54.
- 3) Rai A, et al. Am J Respir Crit Care Med. 2016；193：A1890.
- 4) Jansson PS, et al. J Emerg Med. 2018；55：836-40.
- 5) Vadas P. Am J Emerg Med. 2020；38：1299.e1-2.
- 6) Kane SP, et al. Perfusion. 2018；33：320-2.
- 7) Pottegård A, et al. J Intern Med. 2017；282：322-31.
- 8) Pedersen SA, et al. J Am Acad Dermatol. 2018；78：673-81.
- 9) 第I相単回投与試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.3）
- 10) 第I相反復投与試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.4）
- 11) 社内資料：生物学的同等性試験
- 12) 食事の影響（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.5.3.11）
- 13) 審査報告書（プレミメント配合錠；2013年9月20日）

- 14) ロサルタンの薬物動態（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.5.3.1）
- 15) ヒドロクロロチアジドの薬物動態（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.5.3.2）
- 16) Lo MW, et al. Clin Pharmacol Ther. 1995；58：641-9.
- 17) 腎機能障害患者（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.5.3.7）
- 18) 腎機能障害患者での薬物動態試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.5）
- 19) 海外高齢男女高血圧症患者での反復投与試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.7）
- 20) 薬物相互作用（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.5.3.13）
- 21) 審査報告書（プレミメント配合錠；2006年10月20日）
- 22) 第Ⅲ相二重盲検比較試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.8）
- 23) 第Ⅲ相長期投与試験（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.7.6.13）
- 24) Rakugi H, et al. Hypertens Res. 2014；37：1042-9.
- 25) 第十八改正日本薬局方解説書、廣川書店；2021：C-6319-C-6323、C-6326-C-6335
- 26) 岡田恵、他、基礎と臨床、1994；28：4063-73.
- 27) Wong PC, et al. J Pharmacol Exp Ther. 1990；252：726-32.
- 28) Shah S, et al. Am Heart J. 1978；95：611-8.
- 29) Lijnen P, et al. Br J Clin Pharmacol. 1981；12：387-92.
- 30) ロサルタンとヒドロクロロチアジド併用による降圧作用（プレミメント配合錠；2006年10月20日承認、申請資料概要 2.6.2.1）

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日医工株式会社 お客様サポートセンター
〒930-8583 富山市総曲輪1丁目6番21
TEL (0120) 517-215
FAX (076) 442-8948

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

 **日医工岐阜工場株式会社**
NICH-IKO 富山市総曲輪1丁目6番21

26.2 発売元

 **日医工株式会社**
NICH-IKO 富山市総曲輪1丁目6番21

26.3 販売

武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号